

# 随

# 想

## 豊かな時間を

愛知淑徳で勤め始めた頃、何より興味深かったのは中学で織物を教材としていたことです。学校の廃材、段

ボールや空き箱などを利用したお手製の織り機を使い、生徒自身が図案を考えて整経(経糸を整えること)するということ、全て「オリジナル」にこだわったものでした。当時創作していたつづれ織、カード織り、マフラーの中でも特に珍しいのがカード織りです。

その歴史は、紀元前の古代エジプトまで遡り、ヨーロッパから中国まで広い地域で織られてきました。淑徳中学では今も、この織物のカリキュラムを受け継いでいます。糸は、絡まりにくく強度や艶のある綿糸で、染めから注文している希少なものを使用します。8cm四方の厚紙の角に穴を開け、そこに糸を通して経糸とし、カードを回す度に緯糸(よこいと)を打ち込んでいきます。平織りなどとは異なる難しい組織で、仕組みを理解していなければ柄が綺麗に出せません。淑徳生のすごいところは、その難しい組織の図案を自分で考案するところです。幾何学模様、お花、食べ物、キャラクター、思い思いのものを自由に図案

化する彼女たちの発想力、創造力には、毎年驚かされるばかりです。

カード織りに限らず、どの織物も完成まで長い時間を要します。先の見通しのつかないことに取り組む大変さがあり、トラブルがあればやり直しをせねばならず、不安になることもあるでしょう。その中で計画性を持つて最後まで粘り強く取り組み、完成させることの意義を感じて欲しいです。生徒の感想に綴られた「達成感」「織物の魅力」を読むにつけ、SNS、テレビドラマなどで短い文章や早い展開が好まれる傾向にある昨今、じっくり時間をかけて取り組むことの豊かさを大切にしていければと思います。

